

令和7年度 園評価書

園番号 32 園名 静岡市立飯田南こども園

I 経営の重点に関わること

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
自分が好き 友達が好き	なんでだろう もっとやりたい ためしたい	「やってみたい」と遊びを楽しむ中で「なんでだろう」という思いを持ち、考えたり試したりする	発達や遊びの経過を見ながら、必要な用具や素材を準備したことで、子ども達は好きな遊びを見つけやってみようとして遊び出している。繰り返しの経験が次のステップにつながる様子が見られ、「なんでだろう」「どうしたらいいかな」と考えたり試したりしている。失敗したり上手くできなかつたりすると諦める面があるため、保育教諭と一緒に遊びこみながら、子どもの思いをキャッチしてヒントを与え、共に考え挑戦することを楽しくしている。	B	B	・今年度の重点目標や研修の手立てに基づき、職員が積極的に遊びに入り、子どもの遊び仲間となっている。手立てを職員ひとり一人が意識する事で保育が改善されてきている	・研修や公開保育を通し、引き続き歳児に合った環境構成、保育教諭の関わりなどを学び合っていく。公開保育は、様々な視点から保育教諭の関わりや環境構成を見合い、自身の保育を振り返る機会になるため、そこでの学びをきっかけに保育を改善し質の向上に努めていく。研修テーマに添ったポイントを絞った園内研修をすることで、明日からの保育につながる学びを得られるように研修内容を工夫していく
		「もっとやりたい」と遊びを広げたり深めたりする	今日の遊びが明日につながるよう、取っておける棚を用意したり、遊びの様子を保育室に掲示し子どもが自ら振り返りができるようにしている。保育教諭は、子どもと一緒に遊びこみながら、何を楽しんでいるのか、繰り返し遊ぶのはどうしてかを考え関わっている。年中年少児は、好きな遊びを見つけ、じっくり遊ぶ姿が見られる。また年長児では、「こうしたらもっと面白そう」と自分なりに考えて取り組んだり、友達と意見を交わしながら遊ぶ姿が見られる。	B	A	・コマを繰り返し練習する姿が見られるなど、子ども達がチャレンジすることを楽しめる環境が用意されていた。今年度の育ちを土台にして、来年度につなげていく事を大切にしたい	・園庭環境の見直しを行う。園庭の取っつき棚は「明日続きができるように」という視点で整え、有効活用できるようにしていく ・歳児の発達のおさえを元に、年齢発達に必要な経験ができるよう、1年の見直しを持ち共通理解する。また、縦のつながりを意識した遊びの計画を立て実施していく
		遊びの中で友達の思いや良さに気づき、一緒に遊びを楽しんでいる	異年齢で遊ぶ機会が良い刺激となり、真似をする中で大きいクラスの子や友達の良さを知る事ができている。保育教諭はひとり一人を十分に認め、一緒に遊ぶ事の楽しさや友達の良さを感じられるようにしている。保育教諭が仲立ちする場面を見直し、子ども同士のやりとりを大切にすることで、さらに友達の思いや良さに気づけるようにしていきたい。	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	保育者が発達の道筋を理解した上で、それぞれの年齢で発達に必要な経験ができるよう意識を持ち関わっている	職員会議や研究保育などを通し、各学年の今の発達を園で共有し、計画を立てている。月反省を通して、各クラスが他の保育者からアドバイスを受け、その歳児に合った環境作り、関わりを活かしている。	B	B	・園内研修や会議の場で、職員が立場に関わらず意見を率直に言い合える関係性が良い。職員間の風通しの良さが、子どもにも良い影響を与えている	遊びの共有を定期的に行い、室内外の環境作りに活かしていく。職員会議の月反省の中で、発達のおさえを行い、成長発達を見通した保育がどのクラスでも行えるようにしていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	動と静のバランスに配慮した活動を計画し、年齢発達に合わせた生活リズムが確立できるよう努めている	戸外では乳児と幼児で遊びの時間を分け、それぞれ発達に合わせた活動がのびのびできるようにしている。また、学年を超え連携しながら散歩計画を立て、園外活動での経験を重ねている。室内には発達に合わせたコーナーを用意し、好きな遊びを友達や保育者と楽しめるようにしている。順番保育では、長時間保育の子どもが体を休められる、ゆったり過ごせる場を設けている。コドモンでの連絡を通じ、家庭と連携を取り、個々の状態を把握することで生活リズムを整えられるようにしている。	A	A	・ティッシュなどの必要なものを子どもが自分で取り出しやすいように整理されている環境が見られた。自分でするようになるための環境が整えられている	園庭の使い方や活動の仕方を話し合い、計画的に散歩を取り入れ、各歳児が思い切り遊べる日を作るなど工夫していく。また、次年度に向けた生活リズムを考え見直しを持った保育を行っていく。乳児は特に個別の配慮が必要な為、職員間や保護者と子どもの様子を共有する事を大切にしている
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの発達、姿や思いを捉えた教材や場所など、一人一人がじっくりと遊びこめる環境を整えている	子どもの発達や興味関心に沿った素材や教材を保育者の思いを込めながら整えた。環境や教材についての園内研修や教材研究が定期的に行われ、保育に活かされている。	B	A	・地域との連携では、どのような職種の人たちと連携しているのか？地域には様々な職種の人がいる。一般企業の方に職業紹介をしてもらうなどの交流が行われると良い。小学校では授業の一環で地域の職業調べを行っている。様々な事を知ったり、体験をしたりする事が子どもの育ちにつながっていくので、今後取り入れられると良い	教材研究や園内研修を通して学んだことを活かし、子どもの発達や姿に応じた環境を用意する。研修の手立てを意識した園内研修を行い、素材や教材についての具体的な知識を増やすことで、明日の保育改善につなげることができるようにする
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定での訓練を行い、職員同士連携を取りながら状況に応じた行動が取れ、園児に対しても自分で身を守るような指導ができています	様々な想定で訓練を行ってきた中で、その都度課題や反省点を検討し、アップデートした事で危機意識が高まっている。子ども達が自分の身を守る方法を考えられるような声掛けを意識している。事故防止については子ども自身の危険を察知し避ける力を付けていきたいと思う	B	B	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	事故の傾向から対策を練るなど、事故防止につながる話し合いを実施する。減災教育を元に、意識のアップデートを図る避難訓練の内容と実施時期を見直す
3 健康管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い、うがいなど基本的な生活習慣が身につくよう、年齢や発達に合わせた指導をしている	年齢や発達に応じてイラストを使用したり、保育者が一緒に行いながらやり方を知らせたり声をかけたりする事で手洗い・うがいなどの必要性は子ども達にも理解されていると感じる。手洗いうがいを丁寧に行うことや手をきちんと拭くことの大切さを引き続き伝え、定着を図っていく。	B	A	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	基本的な生活習慣が身につくよう、各歳児の目標を明確にし、手洗いうがいなどの重要性や、やり方などを保育教諭が実際に見せたり、イラストを掲示したりして伝えていく。また、園での取り組みを家庭に伝えるために、月に1回子どもの姿をクラスボード等で伝え、連携を図っていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	個々の発達や特性を理解し、職員間で支援方法を共有し保育している	毎月の職員会議の中で、個の様子や支援者会議の報告をし、情報共有している。また、しるくまの会の様子を写真を使用しわかりやすくまとめ、回覧することで全職員に周知している。	B	A	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	会議の場で支援ツールなどを使っての支援方法を具体的に共有していく。しるくまの会に支援担当者だけでなく、他職員も参加できるよう計画する
5 組織運営	(1)組織体制の充実	担当者が分掌に責任を持ち取り組み、進捗状況の共有を図っていくことで、職員が協力し合える体制ができています	各分掌担当者が中心となり進捗状況を周知している。フリーノートを活用し準備物を依頼するなどしているため、園全体で共有ができています。行事の変更等があった際は、昼うちや打ち合わせノートに記入し周知しているが、伝わりきらないことがある。職員ひとり一人が関心を持ち、積極的に情報を得る意識を持てるように工夫が必要である	B	B	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	フリーノート、会議報告ペアでの周知を続け、必要な情報をきちんと伝達していく事で、職員の連携意識を高めたい。各分掌の担当者を乳児・幼児から均等に配置するよう配慮し、連携しやすくする
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマ『「なんで」「どうして」を生み出す環境づくり』について共通理解し、手立ての検証を行い改善しながら保育が進められている	園内研修を通して、各学年の発達の捉えや子どもの育ちに沿った手立てについて学び、共有ができています。研修に参加できない職員への周知については課題が残る。また、手立ての検証も日誌の中で日々振り返ることができた。	B	B	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	園内研修で学んだことを全職員に周知するための方法を工夫する。また、パート職員が関心を持ち参加しやすいような研修の年間計画を立てていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの「なんで」「どうして」という探究につながる可動遊具や用具、自然物環境が用意されている	マルチバナヤコンテナ、タイヤ等の可動遊具を用意し、子ども達が自分たちの発想で自由に組み合わせて遊べるようにしている。保育教諭の見守りを十分に行うことや遊び方のルールを確認し、安全を確保しながら必要な用具遊具を用意していきたい。自然物は、各保育室で種類や数を十分に用意し、各歳児の発達に合わせて触れ遊べるようにした。	B	A	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	可動遊具の提供の仕方・組み合わせ、タイミング・どのような遊びができるかななどを事前に研修する。職員間で安全面の配慮に共通認識を持ち、必要な自然物や可動遊具を用意する
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの姿や成長を、日々の会話やお知らせボード、ドキュメンテーションなどで工夫して発信し、保護者と子どもの育ちを支える関係づくりに努めている	コドモンでの配信が定着し、園での姿を保護者と共有するためのツールになっている。写真を添付したドキュメンテーションやおたよりでの発信に加え、送迎時に保護者とコミュニケーションを取る事で日々の姿を伝えている。個別面談の際に動画を使用し子どもの姿を伝えるなどの活用もできた。コドモンの使用に関しては、内容や方法の確認と共有を行い、学年ごとにズレが起こらないようにしている。	A	A	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	コドモンで配信される内容について、保護者が積極的に見たいものにするにはどうしたらいいのか園内研修をする。職員の業務改善との兼ね合いも含め、検討したい
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	アプローチカリキュラムを元に、架け橋としての情報共有を行いながら、近隣小学校との連携を進めている	年長児が小学校へ交流に行ったり、公開保育に小学校の先生が来園したりと、情報共有、連携ができています。交流のメインが年長児となるので、年長児以外の職員が交流について把握できていない部分がある。	B	A	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	年長児以外にも交流していきたい。年長児に限らず小学校へ散歩に出かけたり、年度の前半にも交流の機会を作るよう年間計画を立てていく。交流の内容について、職員会議などの場で報告し、全職員に共有する
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	散歩に出かけ地域の方々と挨拶を交わしたり、相撲教室に参加したりするなど交流を重ねている	散歩計画を共有し、他クラスと合同で出かける事で、園外活動の機会を設けられるようにしている。また、相撲教室やしめ縄作り体験を通して地域の方々との交流を重ねている。今年度は、浪漫館訪問も計画し、地域の方々との交流の機会を増やすことができた。	A	A	・減災教育とはどういうものなのか知りたい。小学校では、現在も机の下に一次避難している。災害が想定を超えてくる時代になり、安全管理のあり方も変化している。最新の情報をキャッチする事、情報を精査して現状に合った方法を取り入れていく事が求められていると感じる	年間の散歩計画を立て、春の散歩も増やし、地域の方々との挨拶や会話の積み重ねを大切にしていきたい。おしゃべりサロン等を活用し、乳児と地域との交流の場を増やしていく